

2023年 サステナビリティ・レポート・サマリー

ティー・ロウ・プライスにおける コーポレート・サステナビリティの取り組み

サステナビリティ・レポート・サマリーでは、2023年コーポレート・サステナビリティに対する取り組みの主な進捗状況をお届けします。詳細については、[2023年サステナビリティ・レポート](#)をご確認ください。

特に明記のない限り、本レポートに記載されているすべてのデータは2023年12月31日時点のものです。本概要及び関連資料に記載の情報は、2021年12月29日付けでティー・ロウ・プライス・グループ・インクが買収したオルタナティブ・クレジット投資運用会社オーク・ヒル・アドバイザーズLLP. (OHA) に関する内容は含まれません。

ティー・ロウ・プライスにおける サステナビリティの推進に関する取り組み

国連SDGs目標との整合性と主な取り組みの進捗状況

ティー・ロウ・プライス・グループ（以下、「当グループ」）は国連グローバル・コンパクト（UNGC）に署名しており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成を推進するための取り組みを継続的に強化しています。業務においては、以下の目標達成に向けて責任をもって取り組んでいます。

国連SDGs目標 ¹	当グループの目標	2023年の進捗
5 ジェンダー平等を促進する	2025年までに、世界全体の従業員総数に占める女性の割合を46%に、また世界全体の管理職総数に占める女性の割合を33%に拡大	<ul style="list-style-type: none"> 世界全体の従業員総数に占める女性の割合は44% 管理職総数に占める女性の割合は32.5%
10 人種差別を排除し、社会の包摂性を高める	<ul style="list-style-type: none"> 2025年までに、米国の従業員総数に占める少数民族・人種の割合を19%に、米国の管理職総数に占める少数民族・人種の割合を10%に拡大 2025年までに、少数民族・人種が所有する企業および小規模で不利な立場にある企業への年間支出額を5,000万米ドルに拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 米国の従業員総数に占める少数民族・人種の割合は17.5%、米国の管理職総数に占める少数民族・人種の割合は7.9% 2023年に、少数民族・人種が所有する企業への年間支出額5,000万米ドルを達成
11 持続可能な都市とコミュニティを構築する	2025年までに、全世界の不動産の60%で環境認証を取得	<ul style="list-style-type: none"> 2023年末までに不動産の48%で環境認証を取得 ボルティモアの新社でLEED認証の取得を目指す ワシントンD.C.の10階のオフィスでLEED認証を取得 ロンドン・オフィスで建設後のBREEAM認証取得を目指す
13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> 2040年までに、スコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量²実質ゼロを達成 2030年までに、スコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量を2021年と比較して75%削減 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年以降、スコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量²を4%削減

¹ 出所：国連連合

² 企業の温室効果ガス（GHG）排出量は、スコープ1、2、3に分類されており、スコープ1とスコープ2の排出量は企業の直接的な管理下で生じたもの、スコープ3の排出量は、企業のバリューチェーンにおいて上流・下流両方の活動の結果生じるものです。スコープ1（自社または管理下の施設からの直接排出量）、スコープ2（他社から購入した電気・蒸気・冷却の製造段階における間接排出量）、スコープ3（その他すべての間接排出量）。

急速に変化する市場環境において顧客のニーズに応えるべく進化を遂げる過程にあっても、ティー・ロウ・プライスの中核的な価値は不変です。それは、1937年以降、当グループに大きく寄与してきた理念と慣行に組み込まれており、サステナビリティに対する長期的な取り組みを含め、私達のあらゆる取り組みの基盤となっています。

— Robert W. Sharps
ティー・ロウ・プライス・グループ・インク
最高経営責任者兼社長

気候変動に関するティー・ロウ・プライスの取り組み

当グループの環境戦略の中心を成しているのが気候変動への対応です。気候変動は世界経済と金融市場の安定に大きなリスクをもたらすと認識しています。ティー・ロウ・プライスにおける、投資家向けの気候変動に対する行動計画では、脱炭素化の取り組みについてさらに詳しく説明しています。

資産運用会社として	会社として
スチュワードシップ <ul style="list-style-type: none"> 気候関連の開示に関する業界基準を支持 気候問題を取り入れたアクティブ・スチュワードシップ・プログラム 当グループのエンゲージメントおよび議決権行使の統計を発表 	事業オペレーション <ul style="list-style-type: none"> 2040年末までに、スコープ1およびスコープ2の温室効果ガス排出量実質ゼロを達成 2030年末までに、GHG排出量を2021年と比較して75%削減 事業からのスコープ3排出量を削減するための取り組み
ステークホルダーや業界とのエンゲージメント	

ティー・ロウ・プライスが 支持表明する機関・組織

WE SUPPORT



ガバナンスに対するアプローチ

目標達成へ向けたティー・ロウ・プライスの進捗を支えているのは、適切な方針の作成、手続および監督に重点的に取り組む姿勢です。



グローバルの監督組織であるESG監督コミッティー（ESGOC）がESG活動を取り巻くガバナンス体制を支援します。ESGOCの責任には以下が含まれます。

- ティー・ロウ・プライスの包括的なESG戦略の策定と推進
- ESG関連のメンバーシップ、開示および企業サステナビリティ方針の承認
- 一貫性があり協調的かつ優先的なESG関連イニシアティブの執行とESGリスクの管理
- 全社的なESGの協働の促進
- ESGの運用サポートの組織全体への大規模な組み込み
- 目標に対するパフォーマンスの監視

ティー・ロウ・プライスのコーポレート・サステナビリティ関連プログラムや方針、顧客や社員、地域社会に対する取り組みの詳細情報については、以下のセクションおよび[当グループウェブサイト（英語）](#)をご参照ください。

[ネット・ゼロ・アプローチ](#)

[多様性、平等性、包摂性](#)

[ティー・ロウ・プライスにおけるESGの取り組み](#)